



[坊守の作ったケース]

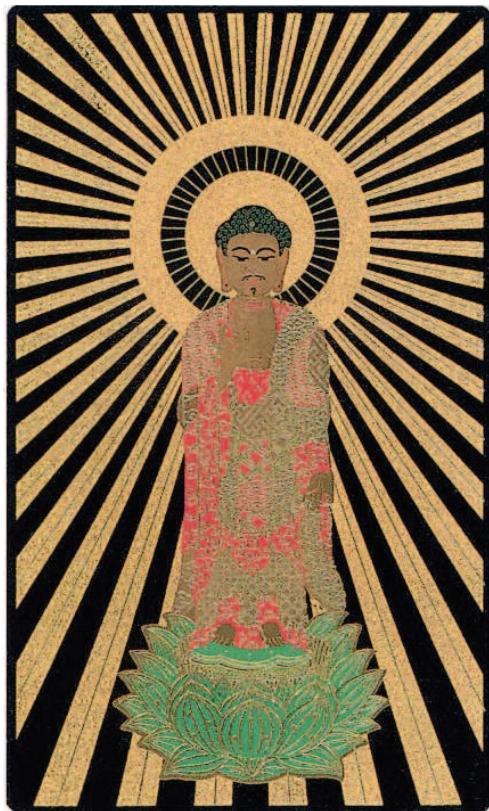
蓋の裏に「われも ひかりの うちにあり」と刺繡が入っています。



[携行本尊とケース]

手のひらに収まるサイズです。

けいこうほんぞんえぞう 携行本尊(絵像)



[令和4年の記念品]

「私の阿弥陀さま」

No.565

11・12
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

[電話] 03-3950-7828

[ホームページ] <http://www.seiganji-tokyo.jp/>

われも ひかりの うちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

ご法事やご法座ご聴聞等で誓願寺にお参りくださった方々に何か思い出となるものをと、本堂での写真撮影や記念品のお渡しを始めて十年目となります。

令和四年は「私の阿弥陀さま」をお渡しいたすこととなりました。

本山から頂きました「ご本尊」を、坊守が作りました刺繡入りのケースに収めたりました。

「私の阿弥陀さま」として大切にお使いいただきますことを念じております。

ご本尊について考えたいと思い、今回の法話は、お同行が寄稿されました「仏が仏を作る」を掲載いたしました。

日頃の思考回路に一石を投じることとなれば幸いです。

仏が仏を作る

お同行 小笠原氏
(昭和二十五年しんらん同人より再掲)

一生懸命仏像を刻んでおられる先生（写真1）の姿を見て『先生は一体どんなお顔のアミダ様を、お作りになろうと思っているのだろう』と考え、「先生はどうなアミダ様がお好きですか」と尋ねた。

おうむ返しに「ホー貴方は色々なアミダ様を知つていらっしゃるのですか」と問い合わせられた。

「例えば○○寺の阿弥陀仏とか、○○寺の阿弥陀如来とか・・・」

話しながらハツ！と先生のお言葉の意味が解った。

先生は語調を変えて話される。「そうですね、美術学的には、平安時代は個性的な面が強調されているとか。時代が下がって藤原時代になると写実的になつて、人間的になつてくるとか言われてい



【写真1】

誓願寺見真会館の仏像を彫刻中の初代住職 岡本泰雄師。
(昭和35年)

ますが・・・」その先は耳に入らなかつた。

勿体ないことを口走つたと思つた。自分は傲慢だと思つた。

「私達は、どこそこの仏さまは美しいお姿をしているから気に入るとか、あの仏さまはどうも心を打たないなどと批評するのは、うぬぼれているのでしようね」と額に汗を流してその場を濁した。

どこの仏さまも一つの仏さまとして拝してきたつもりだったが、気高いお姿の仏さまだと拝まれて、そうでない仏さまはつまらないなどという気持ちが少しでもなかつただろうか。

もし私にそんな気持ちがあつたとしたら、私は木切れを拝んでいたことにならないだろうか。

どう思ひ当たると色々な姿形の仏さまを見て「これは私の気に入つた仏さまだ」とか「この仏さまはどうも手が合わされないような愚作だ」などと言えないのではないか。

どのアミダさまもみんな一つのアミダさまだつたのだ。考えてみると、浄土真宗は仏が仏を作る宗教なのだ。こんな事を言つてはどうかと思うが、アミダさまは我々凡夫を救い、仏にすることを除いたら存在する意義が無くなる。

逆に、私達はまことの物一つも持たない者たちでありながら、仏さまの一方的なお力・お働きによつてまことをいただき、本当の人間として生かさせていただ

生を見て『仏像を作つてているのは人間ではないな』と思つた。

昔から伝わる数々の仏さまも同じだ。

そうだ、仏が仏像を作つているのだ。人間が仏を作つても仏にならない。人間には仏は作れない。仏は仏によつて作られているのではないか。

こう思い当たると色々な姿形の仏さまを見て「これは私の気に入つた仏さまだ」とか「この仏さまはどうも手が合わされないような愚作だ」などと言えないのではないかと反省させられました。

十人十色、人は皆違つたものを持つていながら、皆同じ仏さまのお力によつて同じ救いにあずかるのでした。

「まこととは二つなきをいう言葉なり」とは、何かで読んだおぼえがある。何一つ、はかろうことなくおおらかに念佛することは難しいと思つた。

如来さまの、誰でも同じ仏にしてやるぞというお誓いがあるのでに・・・

仏もみんなまこと、人間の作る仏像もみんな仏さまのまことが働いて出来るまことの仏さまなのであります。

あの仏さま、この仏像などと無意識にも考えていた自分は心のどこかで、○○さんのお念仏、私のお念仏、今のお念

昔、仏さまに似た木切れを拾つて家に持ち帰り、毎日拝んでいた人があつたと聞いたことがある。その人は多分、木切れの奥にあるものを拝んでいたのである。

私がこれから述べる話はこの話と少し意味が違うが、私は仏像を刻んでいる先

ですから私達のような者から出るお念



合掌

ご法座等
のご案内

関東地方にコロナによる自粛令が発令されている期間は、
諸活動を中止致します。ただし蔓延防止期間中は活動の
予定です。詳細は「ホームページ」等でご確認ください。

11月

11・14(日)

午前十時～

定例法座

【上野隆平師】

正午～

医療相談
(※縮小開催)

【佐藤公彦医師】

医療相談終了後に仏具のお磨き、
本堂の掃除を行います。

11・28(日)

11・28(日)

午後一時～

報恩講・祥月命日合同法要
【山本摂叡師】

12・31(金)

午前零時～

除夜会

11・21(日)

午前十時～

なかよしクラブ
(乳幼児から小学生までとその保護者)

12・19(日)

午前十時～

なかよしクラブ

12・12(日)

午前十時～

定例法座・祥月命日合同法要
【上野隆平師】

正午～

医療相談
(※縮小開催)

【佐藤公彦医師】

12月第4曜日の
法座はありません。
ご注意ください。

編
集
後
記



- コロナ禍の中、少し時間の余裕もあり早め早めの取り組みのおかげで、年末の同人発送に合わせて、カレンダーを一緒にお届けすることができました。
- 年末恒例の干し柿作りも第一陣分が物干し竿に並んでおります。

法座は、十月十日(日)熊本から森島淳英師をお招きして三ヶ月ぶりに開催することが出来、同時に誓願寺前住職・故岡本泰仁師の七回忌も執り行われ、お同行親戚四十余名がお参りいたしました。



〔十月十日の法座の様子〕



〔法座後の集合写真〕
(前列右端が森島淳英師)